

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500081		
法人名	社会福祉法人 きずな会		
事業所名	グループホーム きずな (ユニット 1)		
所在地	北海道二海郡八雲町立岩409-13		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様間、入居者様、職員間のコミュニケーションに力を入れている。
 (日々のレクリエーションや月一度の行事を通じて)
 外部の研修には積極的に参加している
 外部から講師を招きリハビリテーションの講習を行い日々の介護に役立てている
 外部からのボランティアを積極的に受けている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500081&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年3月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は四季折々にその美しさを変える遊楽部岳や秋にサケが溯上する川がある自然豊かな酪農地帯に立地している。事業所内は天井が高く開放感があり、天窓から程よい陽が射し込み、掃除が行き届いた居間では利用者同士が童話の読み聞かせやトランプゲームを楽しんでいる。暖かい季節には中庭で花やミニトマトなどを栽培し花を愛で、収穫する楽しさを感じている。身体機能に合わせて入浴が楽しめるよう二種類の浴槽があり、個浴槽では2名の職員がボードを使用して支援し、大浴槽では仲の良い利用者同士と一緒に入浴できるなど、入浴しやすい環境が整えられている。運営者は職員の育成を最大限に追及し、スキルアップのための機会を多く確保している。地域との関わりを大切にしており、周辺に民家は少ないが町内活動に積極的に参加し、避難訓練への参加呼びかけやボランティアなどの受け入れを活発に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を作り、玄関内、ホール中央、休憩室に掲示し、常に目を通す様心掛けている。	開設当初の役員が作成した理念を、毎年年度始めに掘り下げて全職員で話し合い、目標も新たに定め具体的なケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア(カラオケ同好会、若人の集い、町内会敬老会、保育園児)の方々が来所され交流を図るよう努めている。	毎月地域ケア会議に参加して日々のケアに繋がるヒントを得たり、グループディスカッションでは研究発表も行っている。ボランティアの受け入れも積極的に行い、保育園・地域の方々とも盛んに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や実習の場で説明や理解を得る様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様や地域の方々からの助言や意見を頂きサービスの向上に向け活かしている。	開催実績は年4回程と少ないが、地域、行政担当者、包括支援センター、同法人系列事業所職員などが出席して事業所の運営状況、行事活動、災害対策など議題は多岐にわたり活発な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や支援事業所の方々が訪問した際は、積極的に伝え、協力している。	生活保護担当者の訪問時には利用者の暮らしぶりなどを具体的に伝え、連携を深めている。地域のケア会議で情報を交換したり、町の介護に関する相談窓口であるリフレッシュクラブとの交流も活発に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの内様を職員同士話し合い取り組んでいる。外部研修等に参加し、知識を共有している。	身体拘束をしないケアの大切さを十分理解しており、研修会に参加した職員は会議などで報告し、全職員で知識の共有を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会がある毎に研修などに参加し、職員同士で日々のケアについて話し合うなど、防止に、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加したり包括支援センターの担当者と必要時事例の検討を実施したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や御家族様が不安や疑問がない様十分時間をかけ説明やり取りを行うよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日常生活の中で実施し月1回の職員会議の場で周知したり運営推進会議の場で反映させている。	面会時の声かけや話しやすい雰囲気作りに配慮し、電話連絡の時にもさり気なく問いかけ、些細なことでも気兼ねなく話せる工夫をしている。表出された意見や課題は早速検討し反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議の場で情報交換を行い反映させている。	毎月、職員会議を実施している。本部での個人面談があり、日々の仕事の流れなどの改善要望はあったが、活発な意見表出や情報交換には至っていない。	今後はテーマを決めて話し合ったり、日常的にコミュニケーションを図るよう心がけるなど、意見・要望を表出しやすい工夫を検討することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や実績を考慮し、賞与の反映する仕組みを作り、向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月で作業療法士の方を講師に招き研修を受けたり、他事業所での研修に参加する機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通し交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、御家族様が抱える問題や不安な事、要請等、時間をかけ傾聴し理解する様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の気持ちを受容し関わりを多くし信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、御家族様が抱える問題が解決できない時は、専門機関で解決できるか見極め対応する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で個別ケアを念頭に、喜怒哀楽を共有できる関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との関わりを多く持てる様努め、共に話し合い相談できる関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、なじみの関係ができる様、面会、電話の制限をせず支援している。	知人・友人が訪ねて来たり、馴染みの理容院を利用したり、家族から手紙や荷物が届くなど、今までの関係や習慣が途切れないように支援している。家族から電話があった時は、時間を気にせずにゆっくり話せるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に交流の場を設け、利用者様同士交流ができる様関わりを多くする様努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も後本人様及びご家族様の求めに応じ相談や支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動から御本人の要望、訴えを把握し施設での生活に反映出来る様努めている。	日常の関わりの中で表情・言動・サインなどを見逃さないように努めている。本人が話しやすい職員が話を聴き、1対1のコミュニケーションを大切に、思いを表出しやすいように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、御本人様及び御家族様と面談を行い生活歴を伺う事により御本人様への理解を深めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズムを把握し、それを維持尊重できる様努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での生活や言動を通して御本人様のニーズを把握し達成できる支援を行えるような介護計画を作成している。	1人の職員が利用者2～3人を担当し、職員全員と意見を交換しながらモニタリング、カンファレンスを行っている。計画作成担当者が利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成して。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を詳細に記録し状況に応じた介護を提供する為の情報として活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護に対する多様化したニーズに対応するため情報を収集活用しながら多機能化に取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の種類や活動を把握し利用者様及び施設が地域との関わりを深め維持できる様努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族様の意向や要望を尊重しながら急変時にも適切な対応が出来る様係りつけ医との連携体制を取っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診が可能で受診支援も行っている。毎月2回訪問診療が行われ、歯科は必要に応じて往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がある際は、看護師に相談し助言を受け必要がある時は早期に受診している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に2度の往診や各入居者様個人の細やかな受診をする事で医療機関との情報交換や相談が出来ている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所で出来る支援を御本人様、御家族様に説明している。	利用開始時に本人・家族に事業所が対応し得るケアについて説明し、同意書を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを全職員が把握している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署との連携で防災訓練を行っている。	回覧板で地域の方に訓練への参加を呼びかけ、年2回消防署の指導の下、避難訓練を実施している。居室入口に緊急性を識別するトリアージを備え、訓練には利用者も参加している。地域の方も含めた災害時連絡網を整備し、地域と防災協定を締結して協力を得ている。パンや水などの備蓄品は3日分用意している。	事業所の近くには大きな川が2ヶ所あることから、水害を想定した訓練も予定されている。避難経路の確認や自宅にいる職員が事業所にたどり着くまでを具体的に検討するなど早期の取り組みが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重した対応を出来よう努めている。	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に配慮し、人格を尊重したケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団の中で相談事を聞くのではなく、入居者様と職員2人の時間を作りゆっくり話を聞いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の訴えは耳を傾け職員からの説明で拒否がある場合は、無理をしない様努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、衣類、その他、おしゃれが出来る物の購入希望等がある時は支援する様にしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を選び献立に季節感を出したり、入居者様と一緒に考えている。(ひな祭り こどもの日等)	献立は利用者の希望や旬の食材を採り入れ、職員が交代で作成し、それを施設長がチェックして提供している。焼きそばやホットケーキなど利用者の目の前で作り、自由に好みのトッピングを行い、楽しく食事ができるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量が足りない事のない様、注意、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後洗面所へ声掛けや、誘導介助をしている。又週1回義歯の消毒を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	規則的な排泄を習慣づけ時間でトイレ誘導の声掛けを行い支援している。	トイレでの排泄を大切に、排泄パターンを把握し、時間で声かけをし支援している。本人・家族と相談して身体機能に合わせた衛生用品も使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不愉快な思いをさせない様注意し、水分量や提供する食事を考慮している。又便秘傾向の入居者様には、「の」字マッサージを行い予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の清潔を保つのと全身観察など利用者様との信頼関係を築きコミュニケーションをとりながら支援している。	週2回を基本としているが体調や本人の希望に臨機応変に対応している。浴室の前には「ゆ」と染め抜かれた暖簾を掛けたり、浴室の壁に造花を飾り付けたりして、入浴が楽しい時になるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活環境を整えると共に心身を安楽、適切な援助や生活のリズムを整えられる様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示、薬物に対する基本的な知識を十分に理解する様努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合う日常生活の仕事声をかけし、一緒に行動したり支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員と施設の庭を散歩したりしている又、公用者を利用し近くの公園、海などに、外出支援している。	天気の良い日は本人の希望や体調によって事業所の周りを散歩しながら野の花を摘んだり、公園や海へのドライブを楽しむなど、外出する機会を多く確保している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を勘案し御本人様がお金を持ち使う時は職員が見守り付き添っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては職員が希望の相手の番号をダイヤルしてから受話器を渡し対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に施設内の温度チェックを行ったり天気に応じてカーテンの開け閉め、電気を付け対応している。	共用空間は温度や湿度が管理され、光もカーテンで調節して心地よく生活ができるように配慮している。事業所内のいたる所に利用者が描いた絵が飾られ、花瓶などの下には施設長手作りのレース編みを敷いて家庭的な雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルやソファがあり入居者様が自由に使える様にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自由に利用して希望通りの部屋作りを行っている。	居室には電動式介護用ベッドとクローゼットが備え付けてあり、持ち込まれる家具は少ないが、配置は職員と本人が相談しながら行い、家族の写真や思い出の品を飾り、温かい雰囲気作りに工夫している。仏壇を持つ利用者には、毎朝ご飯を供えて供養ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの元で出来る事は、自分でやってもらう様になっている。		